

銀の皿

「書きまくる」



幾度とフィリピンでの留学の話をさせていただいていますが、そこで一人の英語の先生に出会いました。その方がいなくては今の自分は無いと言える恩師です。フィリピン人の女性で、日本の漫画を愛し「私はオタクになりたい」と言っていたとてもユニークな先生でした。その方の方針はとにかく文章を書いて書いて書きまくらせるというものでした。「日本の文化について」、「アメリカの大統領について」、「自分の家族について」様々な課題をA4用紙一枚に書かせ、そしてそれを先生が添削してくださいました。そしてこの課題はある一定期間毎日続きました。しかしこの期間私の英語力は一番成長しました。

いつもその先生が私にかけて下さった言葉は、「あなたの表現、あなたの言葉で書いてください。」「あなたの文章はとてもエキサイティングで魅力的です」と言って下さったのでした。私はこの当時、英文を書く時一旦日本語に書いて、そしてそこから英文に直していました。しかし毎日書くためにはそんな時間はなく(他にも単語テストやらたくさん宿題があった)この時くらいから英語で直接書き出すようになりました。文章を整えるとか、あれこれ考えるより直観的に書き、いつも自分の表現を肯定してくださる先生をワクワクさせたいと自由に書き出すようになりました。気が付けば日本語でいったん書き出す事は一切なくなり、英文法も身に付き、私の目標としていた英語で論文を書く基礎が身についていました。あまり細かい文章の間

違いを気にせず、まず自分がワクワクする。己の表現を大切に、大切な事を届ける。銀の皿の根底にあるものです。そしてそれは恩師を通じて教えられたものです。

神様は私達にあの人のような奉仕、仕事、あるいはこの先生のような伝道や牧会を望んではいません。憧れを抱く事、良いものを取り入れる事は大切な事ですが、その人にならなくても良いという意味です。私達はもっと、もっと自分を大切にしなければなりません。なぜなら神様は私達の賜物、私の存在、あなたの表現で神様の事を伝えてほしいと願っているからです。私達は聞かなくてはならない声に耳を傾けず、聞かなくて良い声に耳を傾けがちです。それは人の評価を気にしてしまうからです。「私は揺らぐことが無い」と告白したダビデですが、それは自分に自信があるからではありません。自分の事を信じてすべてを委ねて下さっている主が共にいるからこそ出た告白です。私達には福音が委ねられています、そして聖靈なる神が共におられ、私達を通じて表される神の言葉と教えを期待しておられます。そしてそれを見た人々が又同じように育っていくのです。共に主を見上げ前進してまいりましょう。

マタイ 28:20

また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。

見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。

